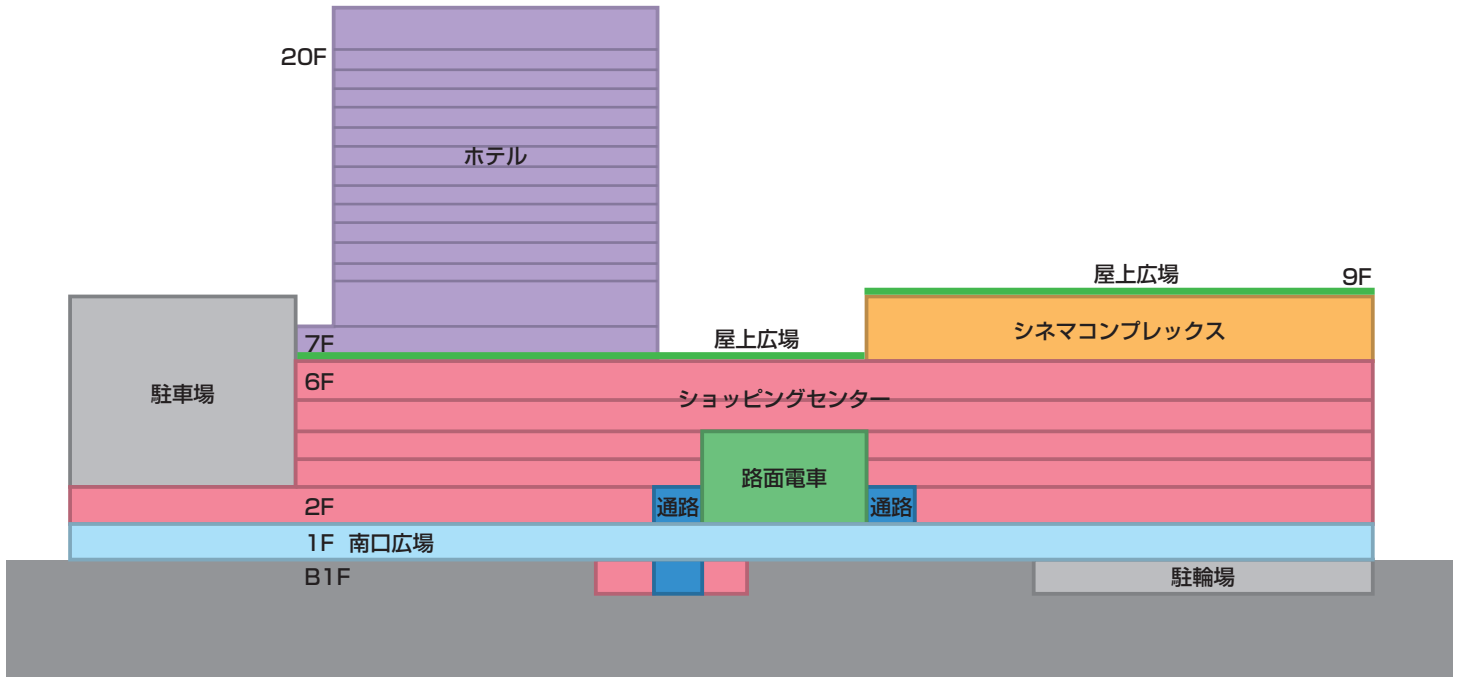


広島駅新駅ビル フロア構成イメージ



完成イメージ

地下イベント広場直上の路面電車高架部は、橋脚を建てないようにするため、側面を擁壁構造とし、内部を軽量盛土構造としています。
上側の高欄部分は、路面電車の足元まで見て楽しめるよう透過性のあるものとし、壁面は、アクセントとして凸凹をつけ、建築的な意匠を施します。
また、擁壁の足元は低木で緑化します。

大州通り等を横断するペDESTリアンデッキは、通路幅として必要な4mに、植栽付きベンチなどを設置して憩いを生むゆとり空間の3mを加え、合わせて7mの幅員としています。

色調は、新幹線口のペDESTリアンデッキや自由通路との統一感を持たせるため、ライトグレー系をベースに全体としてまとまりのあるものとしています。また、屋根は、開放感や採光性、更には路面電車乗降場と賑わい空間を覆う大屋根や新駅ビルの眺望を考慮し、片持ち構造の半屋根としています。

■地下イベント広場直上の路面電車高架部



■大州通り等を横断するペDESTリアンデッキ

